

登録コード	UAF11500	開講年度	2026				
授業題目	比較教育学特論				担当教員	林 寛平	
					副担当		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・2時限		
			授業形態	講義			
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】	
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学，2 3 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学						
	【心理・長野臨床以外】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				⇔		
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学						
	【心理・長野臨床】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				⇔		
	2 6 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学，2 6 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学，2 5 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学，2 5 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学						
	【心理】心理学分野の高度な知識・技能を有する。				⇔		
	【心理】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。				⇔		
【心理】多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。				⇔			
(2)授業の概要	本授業では、文献講読を通じて各国の教育制度の概要を学ぶとともに、「比較教育学」が射程とする学術研究の蓄積と課題を学習することを通じて、世界各国の学校教育制度とカリキュラムが子供の心理面と身体面の発達及び学習の過程に与える影響について分析する視点を学習する。						
(3)授業計画	第 1 回：オリエンテーション「比較教育学」の歴史的展開と現在 第 2 回：比較教育学の理論に関する文献講読と議論 第 3 回：比較という手法に関する文献講読と議論 第 4 回：教育学の理論に関する文献講読と議論 第 5 回：子供の発達の具体的事例を扱った地域研究の文献講読とその特質についての議論 第 6 回：子供の発達の具体的事例を扱った地域研究の文献講読とその課題についての議論 第 7 回：学習環境の具体的事例を扱った二国間比較の文献講読とその特質についての議論 第 8 回：学習環境の具体的事例を扱った二国間比較の文献講読とその課題についての議論 第 9 回：測定技術や教育のグローバル化を扱った文献講読とその特質についての議論 第10回：測定技術や教育のグローバル化を扱った文献講読とその課題についての議論 第11回：比較教育学研究の批判的省察について扱った文献講読と議論 第12回：大規模国際アセスメントの展開と比較教育学研究の課題について扱った文献講読と議論 第13回：国民国家の枠組みを問い直す文献講読と議論 第14回：教育の市場化について扱った文献講読と議論 第15回：比較教育学研究の地域的傾向（レポート課題提出） 定期試験期末試験の有無 無						
(4)成績評価の方法	成績評価は授業内課題(100%)とする。課題は比較教育学の理論あるいは方法論的な課題を考察したレポートを提出してください。得点率による評価基準は次のとおりとする。90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	・ 比較教育学の理論あるいは方法論的な到達点と課題が適切に整理できていて、異なる学校教育制度とカリキュラムが子どもの心理面と身体面の発達及び学習の過程に与える影響について、正確な事実やデータに基づいて比較分析できる場合には「卓越している」と評価する。 ・ 比較教育学の理論あるいは方法論的な到達点と課題が適切に整理できていて、異なる学校教育制度とカリキュラムが子どもの心理面と身体面の発達及び学習の過程に与える影響について、正確な事実やデータに基づいて比較分析する視点を有している場合には「かなり上にある」と評価する ・ 比較教育学の理論あるいは方法論的な到達点と課題がおおむね整理できていて、異なる学校教育制度とカリキュラムが子どもの心理面と身体面の発達及び学習の過程に与える影響について、正確な事実やデータに基づいて比較分析する視点を有している場合には「やや上にある」と評価する ・ 比較教育学の理論あるいは方法論的な到達点と課題がおおむね整理できている場合には「その水準にある」と評価する						
(6)事前事後学習の内容	Web（eALPS）上にアップロードされた授業資料を適宜ダウンロードして予習復習を行うこと。特に、各回で指定するキーワードに関しては各自で授業前に説明できるように調べておくこと。						
(7)履修上の注意	この授業に関する連絡事項等は原則としてeALPSシステムを使って行うため、登録メールアドレスに着信するメール内容を随時確認すること。 受講者に日本語以外の話者がいる場合には、英語で授業を開講する。レポートは日本語での提出も可とする。 ・ 総合人文社会科学研究科の院生が受講する場合のみ開講します。 ・ 教育実習等で欠席する場合には個別に代替措置を講じますので、必ず十分に前もって相談してください。事後の対応には応じられない場合があります。（学部授業を科目等履修する場合には、教職大学院						

(7)履修上の注意	の授業が優先されます) ・授業アンケートの依頼がある場合にはご協力をお願いします。
(8)質問,相談への対応	事前にメールでアポイントメントをとってください。 林研究室＝教育学部 N307研究室（電話：026-238-4203） メール＝kampei@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	中田麗子ほか編『北欧の教育再発見－ウェルビーイングのための子育てと学び』明石書店、2023。 (ISBN: 9784750355634)
【参考書】	ユルゲン・シュリーバー編『比較教育学の理論と方法』東信堂、2000。 ドミニック・グルー他編『比較教育』文教大学出版事業部、2011。(ISBN: 4904035267)ほか